

## 梅に鶯

2025-2-23 野口幹夫

我が家の梅は樹齢 50 年の老木である。花も毎年減っていている。最盛期は梅の実も 1 KG は取れたが昨年は数えるくらいになっていた。

「桜切る馬鹿 梅切らぬ馬鹿」のことわざもあるので、昨年秋に庭師に頼んで剪定してもらった。ことわざ通りだった。

今年は昔のように元気な花が咲いた。実もなりそうだ。



梅の木は花の後細い枝が一杯生え出て長く伸びるが、花はそこにはつかず写真のように、元の太い枝に咲くからだ。

小さな庭だが、それなりに愛着の歴史がある。姫路から引っ越ししてきたとき、一緒にねむの木を持ってきた。結構大木になり鳩が巣を作った位であった。やがて枯れて今は思い出だけが残っている。

25年前には驚いたことに、実生で大島桜が、芽を出し大きくなった。近くの邸宅に大きな親の木があるので、その咲くらんぼうをついばんだ鳥が運んできたのだ。何もしなかったが、無事育ち 25 cm くらいになった。花はなかなか咲かなかったがそれでもちらほらと咲くようになった。

しかし育った場所が悪く、これがあと 10 年も大きくなると、その根はどんどん太くなり、わが家のコンクリートの下部構造を傾けそうな感じになってきたので、昨年残念ながら切った。

小さな庭だが「さざんか」が咲き、「水仙」もいっぱい咲いている。



鳥たちも来る。メジロやシジュウカラ、ムクドリなどは珍しくないが、昨日は鶯が来てきれいな声を聴かせてくれた。

「梅に鶯」ほんの一瞬の鳴き声だが、日本古来の言い習わしの気分になって、まだまだ寒いがいよいよ春遠からずの季節になった。